

第36回例会報告

就業体験プログラム実施報告・採用に成功している企業の事例発表

多摩地区にある17の私立大学、多摩地区大学就職研究会の協力により実施された就業体験プログラム。8月上旬～9月中旬の期間、8つの企業において38名の学生が就業体験を実施しました。例会では、参加された2社の会員企業と若手社員の皆さんに、それぞれの立場から実施後の報告をしていただきました。

エム・ケー株式会社 専務取締役 小林久恵 氏

今年で創業36年になる当社は、社員50名の総合不動産デベロッパーです。大規模開発事業とヘッドリース事業の二本柱で事業を展開しており、大規模開発事業では第11回多摩グリーン賞最優秀賞を、ヘッドリース事業では第13回で優秀賞を受賞しました。2020年からインターンシップを開始し、2023年に初めて新卒を4名、2024年には明星大学、拓殖大学、そして授業をうけおった多摩大学の学生計3名を採用しています。

インターンシップ1日目には現場を徹底的に見学していただき、2日目にはワークショップを通じて、都市計画上の法律を学んでいただきました。次第に学生たちの地図を見る目に変化が現れました。カリキュラムの最後には、当社を表現するキーワードをいくつか用意し、



学生たちに選んでもらう場を設けました。学生は「人間力の塊、ヒューマン経営」を選び、学生がよく見ているのは当社の「社員」なんだと知ることができました。今後も大学での授業やインターンシップを通じて、学生と共に学び続けたいと思っています。

《若手社員の声》2023年入社・法政大卒 T.D さん

5日間のインターンシップで社員の方々との交流を通して、会社の取り組みを理解し、会社の雰囲気に惹かれ、一緒に働くイメージを持つことができました。入社を決め手になりました。現在は埼玉県蓮田市で土地区画整理事業などを担当しています。

《若手社員の声》2023年入社・多摩大学卒 R.K さん

インターンシップで事業規模の大きさや社員の皆さんの雰囲気を知れて入社を決めました。現在は青梅市の土地区画整理事業に携わり、地権者訪問や街づくりを担当しています。そして、経験者としてインターンシップの担当もしています。

金澤建設株式会社 常務取締役 金澤大恵 氏

当社は小金井に拠点を置く、来年で創業80年を迎える地域密着のゼネコンです。第14回多摩グリーン賞最優秀賞をいただきました。2024年には3名の新卒が入社し、1名は施工管理部門、2名は私がいる管理部門に配属しました。新入社員には最初の2日間は外部研修を受けていただき、その後、約2カ月間をかけて5部門を回ってもらいます。会社への貢献を考えるよりも、まずは会社と仕事の仕組みを学べる環境づくりをしていて、ビジネススキームとしての礼儀作法を理解してもらっています。当社に入社したからには共に助け合いながら、喜びを分かち合って、苦しみ乗り越えて、最高の景色と未来をつくっていけたと思っています。



当社は学生と直接会う機会が少ないため、このような機会は大変貴重に感じています。企業もドキドキしながら、素晴らしい学生さんたちとの出会いを心待ちにしております。

《若手社員の声》2024年入社/施工管理部 N.T さん

文系出身だったので、経営サポート・施工管理部という未知の世界で自分が活躍できるのか不安でしたが、飛び込んでみたら毎日ワクワクして充実しています。

《若手社員の声》2024年入社/管理本部 S.S さん

入社前には会社に貢献しなければいけないという不安がありましたが、見ることですべてが学びだと教わり、前向きな気持ちで仕事に取り組んでいます。

《若手社員の声》2024年入社/管理本部 M.H さん

入社してから学歴や学力はあまり関係ないことに気付かされました。たくさんのことを学べる環境でとても感謝しています。

総括 多摩地区大学就職研究会 代表幹事

今年は17大学の多摩地区大学就職研究会の皆さまが参加していますが、エム・ケー様、金澤建設様のインターンシップへの取り組みを参考に、早速就職支援に役立てたいと思います。

インターンシップを通じて入社された社員さんがいるいうこ

亜細亜大学学生部キャリアセンター 鈴木 一央 氏

とは、この活動が実を結んだのだと実感しております。会員企業の皆さまにはご尽力いただき、感謝しております。本学は武蔵野市にあり、グラウンドも日の出町にありますので、今後も多摩地域を盛り上げるためにも精進してまいります。

第36回例会報告

ー 基調講演・グループディスカッション ー 「トランジションデザイン」の考え方について ～多摩の未来/自社の未来について～

第36回例会の第2部では、基調講演として東京科学大学の大橋匠准教授が『トランジションデザイン』の考え方について語り、その後にテーマ別に複数のグループに分かれ『多摩の未来/自社の未来について』のディスカッションし、未来を予想したプレスリリースを発表しました。

講演内容

私たちは社会システムを持続可能にさせるトランジションデザインの方法論を研究しています。例えば、畜産、農業、防災、街づくりなどです。また、大学には数多くの技術シーズが蓄積されており、これらのディープテックのスタートアップをどのように生み出すのかも研究しています。



トランジションデザインとは、自社（地域）のあるべき未来像をイメージして「逆算して今何をすべきか」をデザインする考え方です。何が成功なのか失敗なのかを考えるときには、マルチレベル・パースペクティブという理論的枠組みが非常に示唆に富んでいます。この理論では、社会に実装・普及される過程を3つのレイヤーに分けて考えます。最上層の「ランドスケープ」は、SDGsや国際情勢などの大きな流れです。中間層の「社会技術レジーム」は社会ルールの束のことで、市場の状況、政策などを含んでいます。そして最下層の「ニッチ」は、新しい事業や取り組みのことで、ニッチが普及しにくい理由としては、この中間層の社会ルールが既存の技術やサービスを保護しているからであり、これに割って入るためには、ランドスケープやニッチからの圧力が必要です。トランジションデザインという方法論を通じて、フロントランナーと共に現状を理解し、望ましいワクワクする未来に向けた具体的なアクションプランを立てることが重要なのです。新しい取り組みを社会に実装する道が開けたらと思います。

今回のテーマである「2050年の未来を考える」ためには、未来を4つの段階に分けて想像することが重要です。「現在の状況」から始まり、もっとも可能性が高い「起こりそうな未来」、やや可能性が低い「起こりうる未来」、そして実現が困難な「不可能な未来」です。例えば、2050年にドラえもんに登場する「どこでもドア」を実現させるのは難しいですが、ひょっとすると3000年後には可能かもしれません。重要なのは未来のエッジ、つまり予測できない領域を探索すること。そして「望ましい未来」を定義し、その未来に向けて逆算して進むべ

き道を考えることです。この方法は、予測に基づくフォーキャストイングとは異なり、未来の可能性を広げるバックキャストイングによって、より革新的な未来を描くことが可能なのです。

2050年の多摩の未来を選び取る作業を通じて、具体的なアクションプランを立てるためにも、ここからワークショップを始めます。テーマは6つ、「多摩のグローバルな都市競争力を高めるスタートアップ環境」「防災や防犯、サステナビリティなどの社会課題解決と産業活性の両立」「ダイバーシティの未来に関する働き方や教育のあり方」「エネルギーと産業の関係」「ウェルビーイングと環境サービスについて」「多摩のブランド構築の可能性」です。グループディスカッション後、各社がテーマを選択して未来に発表するプレスリリースを作成しましょう。



<未来プレスリリース発表一例>

■MIRAI-LABO:ディズニーランド内に太陽光路面発電とEVリパースターションを用いた、自立型エネルギーインフラの導入を進めるため、2023年4月に経産省NEDOの支援で、11月からの実証検証を開始。パレード車両のEV化と発電電力をパレードの電源に活用。

■関東経済産業局:2034年4月にスタートアップ創出を目指し、多摩地域にリアルとバーチャルを融合させたグローバル対応のコミュニティを設立。自動翻訳技術の進展とベンチャーキャピタルの増加に伴い、言語の壁を超えて海外ともつながれる場を構築。

■イズミ:2040年に家庭用の完全水循環システムの実証実験を開始。背景には水資源の重要性と災害時の迅速な水道復旧の必要性から、宇宙船での技術を参考に、2045年には一般販売。

■エム・ケー:多摩にある大学キャンパス未利用地を工業用地に転用し、日本リニューアブルと東成エレクトロビームと連携して、金属配管リマニュファクチャリングの技術開発拠点とする。2035年に更新が必要な1000万戸超のマンション配管を再生利用することで二酸化炭素削減を目指す。

講師 プロフィール Lecturer Profile

大橋 匠 氏 [東京科学大学 准教授]

専門はトランジションデザイン、人間中心デザイン。持続可能な社会の実現に向けて、畜産、防災、半導体教育システム、介護など多様な分野において、学際的・超学際的なアプローチで研究を進めている。ステークホルダーとの緊密な連携を通じて、各分野の課題解決と持続可能な実践への移行プロセスの形式知化に取り組んでいる。米国・スタンフォード大学客員助教(2019～2020年)。中国・北京師範大学HonoraryMentor(2024年)。タイ・チュラロンコン大学AffiliatedResearcher(2024年～)。技術研究組合最先端半導体技術センタ(LSTC)人材育成検討委員会